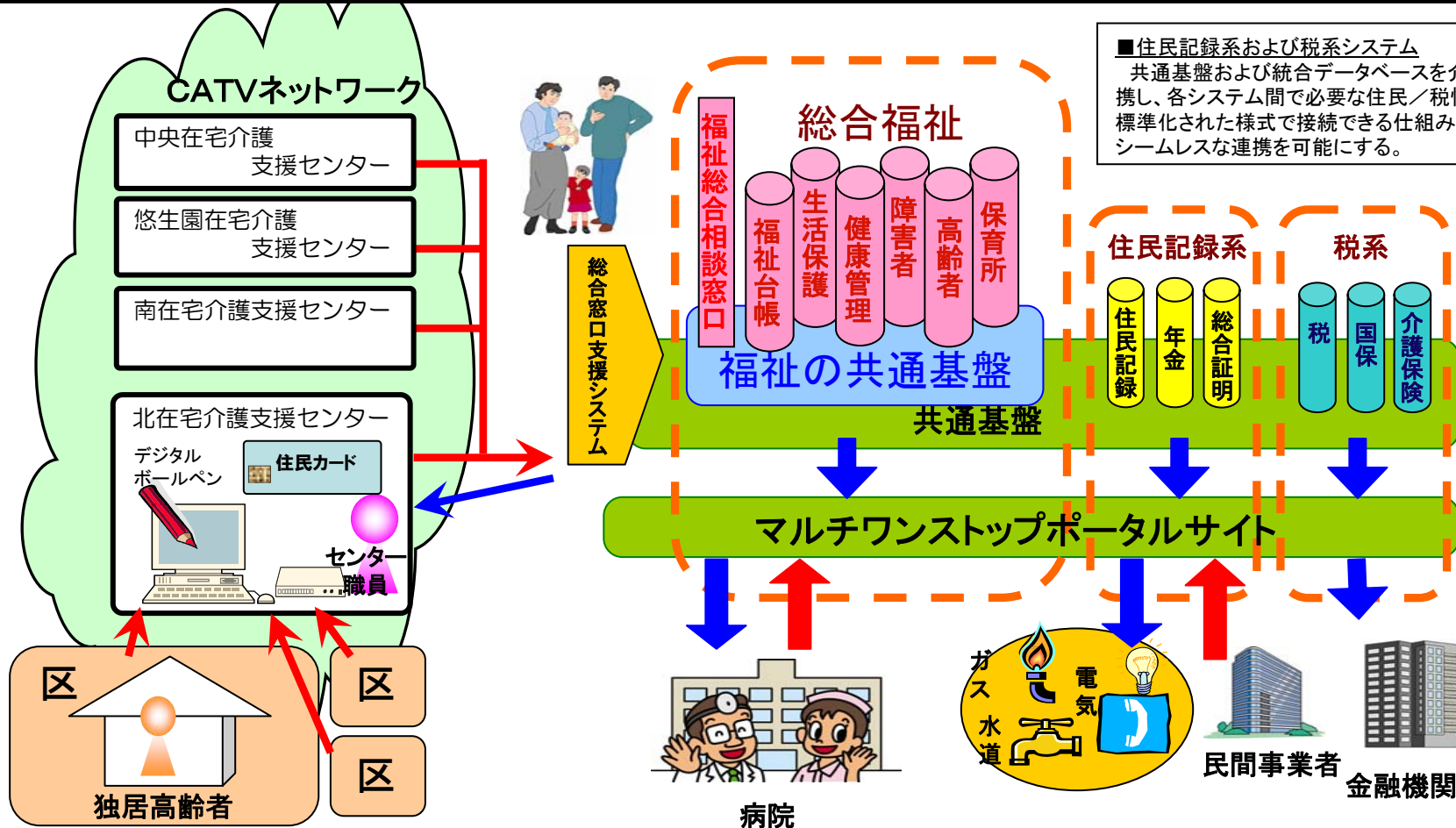


1. 事業概要図(平成20年度～平成24年度)

福岡県大野城市

福祉総合窓口システム、総合福祉システム、住民記録系システム、税系システム等を共通基盤上に構築しワンストップ化を図る。住民の異動に伴う手続きだけでなく、長く居住している住民に対しても申告や保健福祉などの手続きをワンストップで行い住民サービスの向上とともに電子自治体・電子市役所の実現を図る。また、台帳の電子化による共有情報の拡大や電子的媒体での入力の手軽化を図る。



■住民記録系および税系システム
共通基盤および統合データベースを介し連携し、各システム間で必要な住民/税情報を標準化された様式で接続できる仕組みを作りシームレスな連携を可能にする。

■福祉総合相談窓口支援システム
市民をご案内するとき、世帯状況、課税状況、各福祉サービスの条件照らし合わせ、条件に合うサービスの紹介を行ったり、申請書入力の一歩化が行える。

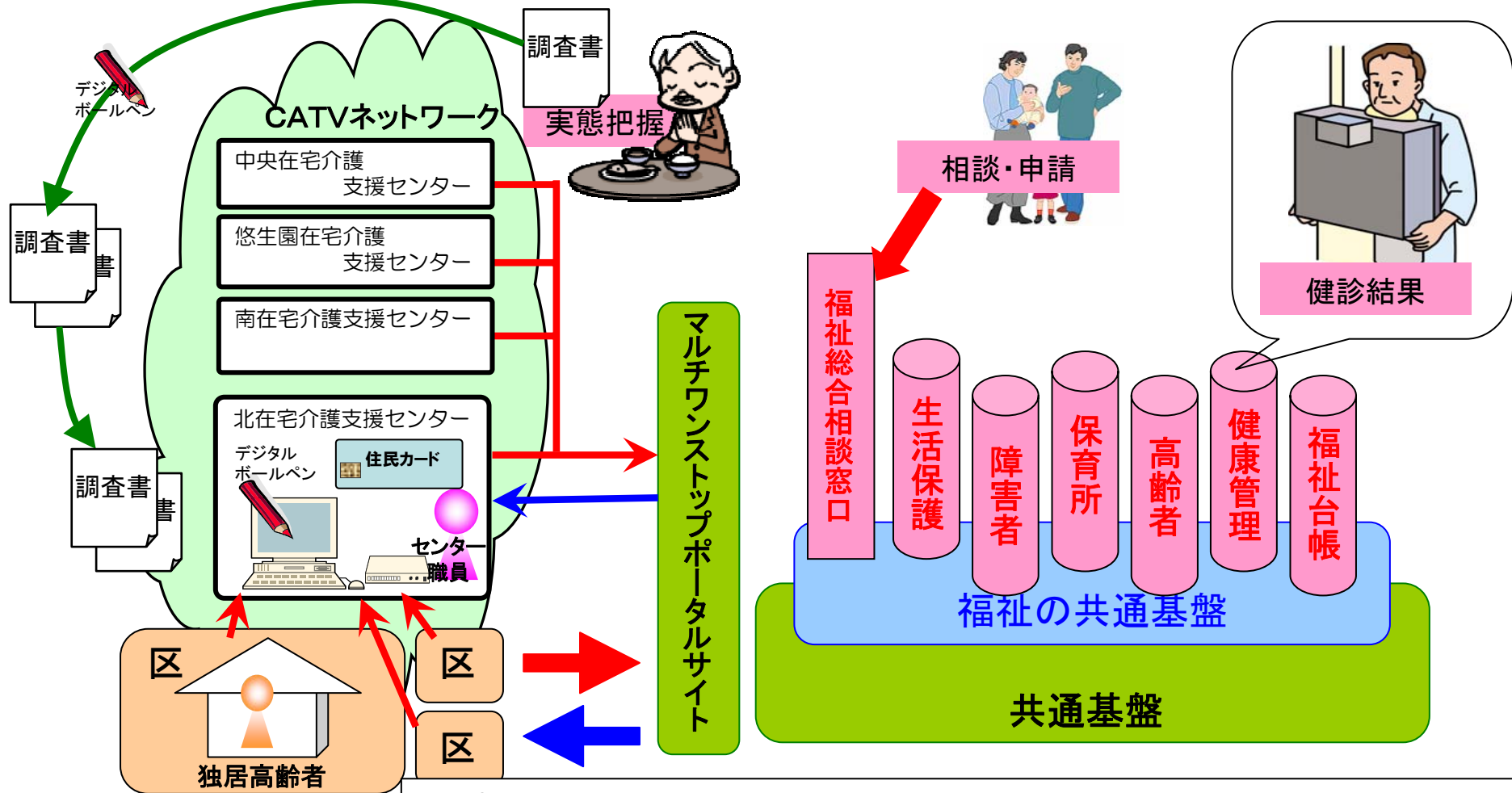
■総合福祉システム
福祉分野の各システムを共通基盤を介し連携する。各業者間でシステム連携や情報共有が容易になり、市民に対し横断的なサービスが可能となる。

■福祉台帳管理システム
紙台帳管理の母子保健分野と福祉分野の情報を電子化し共有することで、各場面においてきめ細やかなサービスを提供する環境を構築する。

■手書きペン入力システム
訪問調査の入力をデジタルボールペンで行いシステム入力の簡略化および迅速化を実現する。さらにICTに不慣れた調査員のデジタルデバインドを解消する。

3. 事業概要図(高齢者及び健診等に関する情報共有システムの構築)

高齢者の実態把握などの調査を、市内4箇所の在宅介護支援センターで行い、その報告書をデジタルボールペンを利用し記入する。記入した情報はデータとして処理され、CATV網を利用したVPN回線を通じて市庁舎に設置しているサーバに蓄えられる。蓄えた情報を各福祉システムで共有する。電子的な情報伝達を行うことで高度で迅速なサービスの提供を実現できる。



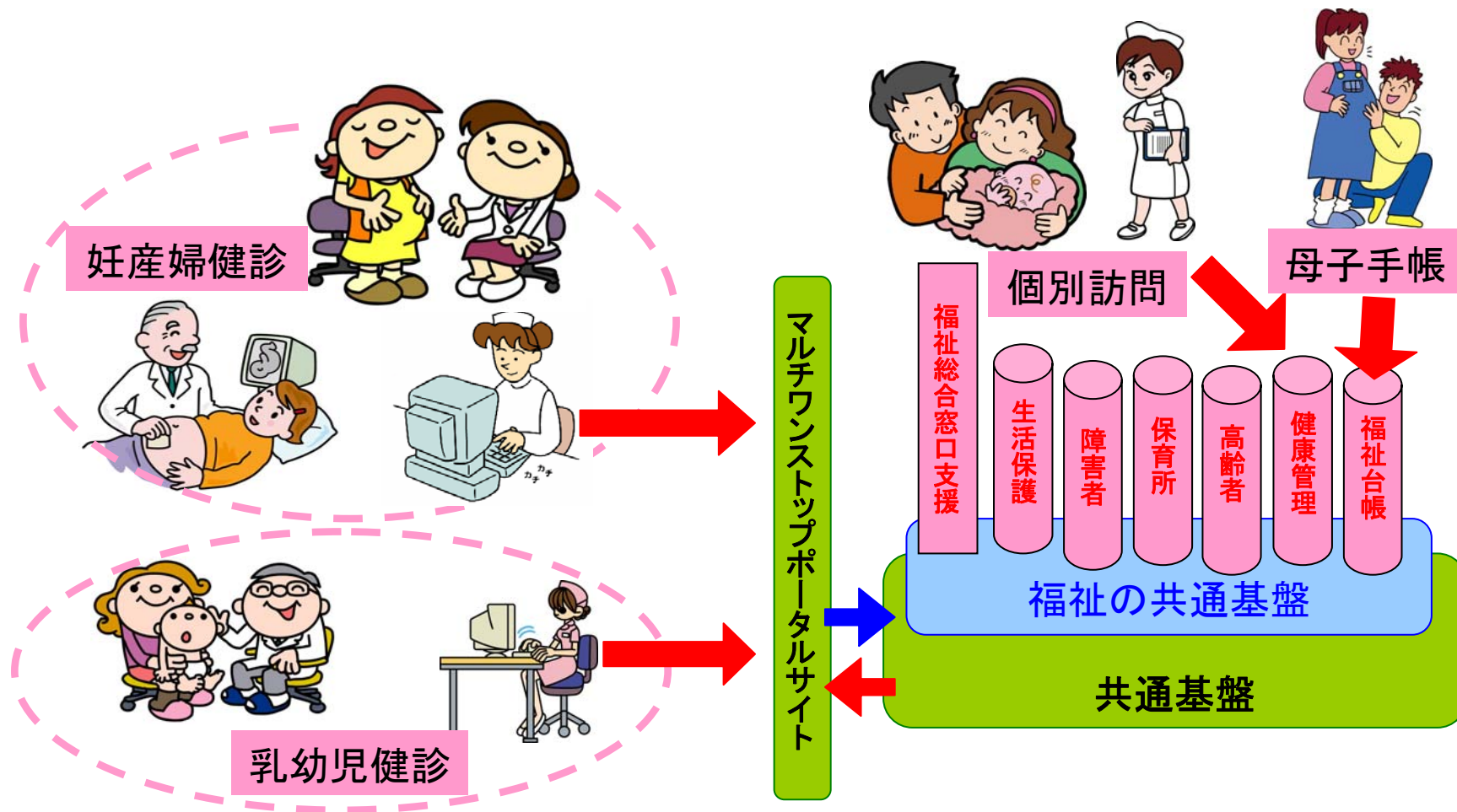
■手書きペン入力システム

訪問調査の入力をデジタルボールペンで行いシステム入力の簡略化および迅速化を実現する。さらにICTに不慣れな調査員のデジタルデバインドを解消する。

4. 事業概要図(妊産婦及び新生児の情報共有システムの構築)

福岡県大野城市

妊産婦検診～各種乳幼児健診や既往症・受診履歴、予防注射、発育記録などの情報を電子化し、問題点となっている保育所・幼稚園～小中学校までの情報が不連続で一貫性がない部分を、情報の共有化を行い一本化した形で提供し、節目ごとに同じ内容の保健調査書を書かなくても良い仕組みを構築する。また、健康診断の結果を反映したサービス提供を行う。(高齢者、障がい者)



■福祉台帳管理システム

紙台帳管理の母子保健分野と福祉分野の情報を電子化し共有することで、各場面においてきめ細やかなサービスを提供する環境を構築する。